

I 看護の動向と課題

○平成 27 年 7 月 22 日 看護の動向と課題 I

1. 講義テーマ：「看護について考える」



<受講生の学び>

- ・自分の看護体験を振り返り、他の参加者から意見や体験を聞くことが出来た。
- ・現場ではなかなか考えることが出来ないことを考えることが出来、とてもよかった。
- ・他病院の現場の意見が聞けた。少人数で囲んで受講できたことはリラックス出来て良かった。
- ・いろいろな方の話（体験談）から違った視点で看護を振り返り、考えることが出来た。

2. 講義テーマ：「看護がどのように変化しようとしているのか学びましょう」



<受講生の学び>

- ・看護の動向は現場ではなかなか学ぶ機会が少なく、今回の変化を知ることが出来て良かった。
- ・地域から発信しているシステム・環境の変化が勉強になった。自分の地域で患者さんのためにできることを、今の病院での他職種と連携を図りながら提供していきたい。
- ・看護の動向と課題について、詳しく学ぶことが出来て良かった。

- ・変化している看護について自分がしたい看護・専門性を考える機会が出来てよかった。

○平成 27 年 7 月 23 日 看護の動向と課題Ⅱ

1. 講義テーマ：看護教育（制度）の歴史的変遷と現状 わが国の看護・看護教育の展望と課題



<受講生の学び>

- ・日本以外の看護について勉強できた。なかなか知ることがないので、勉強になった。
- ・現在の看護の課題で話し合うことが出来た。
- ・いろんな職場の方と1つのことについて学び、現状や展望・課題について話せたこと。
- ・看護や看護教育の変遷を改めて、学べたこと。
- ・看護教育の歴史から現状について改めて学ぶことが出来て良かった。問題点をみんなで共有出来てよかった。

Ⅱ 根拠に基づく看護

○平成 27 年 8 月 6 日 根拠に基づく看護

「日頃の看護実践を振り返り、根拠に基づく看護実践を行っていくための対策を考える」



○平成 27 年 8 月 6 日 看護過程



<受講生の学び>

- ・ アセスメントの重要性を改めて痛感した。自分のアセスメント能力を向上させるために再度担当患者のアセスメントを試みようと思う。
- ・ 久しぶりにあらためて、看護過程の展開を振り返る良い機会になった。普段の業務では、明確化させることが足りていないことを自ら知ることが出来た。個々を見る力、一言一動に隠された意味を「どうして…？」と追求できるよう努めたいと思う。
- ・ 患者さんのその時の状態だけを見て判断していた所があったと思う。患者さんの全身を見るのを忘れずに、その人の入院前生活状況なども情報収集し、アセスメントできるようにしていきたい。
- ・ 看護過程をあらためて振り返ることが出来て良かった。なぜ看護過程が必要なのか、誰のための計画なのかを考え、実践していきたいと思う。

○平成 27 年 8 月 11 日 フィジカルアセスメント①～④



<受講生の学び>

- ・ 基本的なフィジカルアセスメントを復習できた。
- ・ SBAR（エスバー、*参照）について初めて知ったので、これからも勉強していきたい。普段やっている事がこれで良いのかと振り返る機会となっているため、とてもよかった。
- ・ ヘルスアセスメント、SBARについて、良く知らなかったので理解できました。呼吸について観察力不足だったと思いました。呼吸の観察の大切さを学びました。
- ・ バイタルについて、疾患との関連が理解できた。日常で実践されているか、振り返ることが出来た。
- ・ 日常行っていることを文字、文章にするとたくさんの事を考え、する必要があり、また実践していることを感じました。
- ・ 疾患・病態と結びつけた勉強を行い、現場に生かしたい。

* SBAR：エスバー。1. 状況（**S**ituation）、2. 背景や経過（**B**ackground）、3. 判断や考え（**A**ssessment）、4. 提案や依頼（**R**ecommendation）の頭文字に由来。状況を適切に伝え、相手の的確な行動を引き出すという情報伝達のためのスキル。

○平成 27 年 8 月 12 日 フィジカルアセスメント⑤⑥



<受講生の学び>

- ・ 解剖整理から入っていただけだったので、基礎を再確認できた。人形を使ったり、ペアを組んで実施聞いてみる事が出来て良かった。
- ・ 実際に心雑音を耳に出来て良かった。
- ・ 心臓の構造を再確認できた。心音聴取の部位、聴診器の使い方を学べてよかった。異常・正常の心音を人形で直接聞けて勉強になった。
- ・ 解剖から実際の心音の違い、異常を学ぶことが出来た。
- ・ 心音を聴取する前に、心臓の機能と構造の説明があり、振り返り思い出しながら行うことが出来、わかりやすかった。フィジコを使うことで、耳で聞けるとイメージも付きやすく良かった。
- ・ 現場で心音を聴取してこなかったもので、実際の正常、異常音の違いがわからなかった。何度も聞いてトレーニングしたいと思う。左右確認することの重要性を改めて感じた。

○平成 27 年 8 月 12 日 フィジカルアセスメント⑦



<受講生の学び>

- ・腸蠕動音の正常・亢進・減少の程度がどのくらいかが、はっきりわかったのでよかった。お腹の血管の音の聞き方がわかって良かった。
- ・わかりやすい資料いただき、後で復唱したいと思います。実技があり、理解できた。
- ・実際に正常音・異常音を聞くことが出来て良かった。聴診・打診・触診による、それぞれの臓器の音の違いや触れた時の感じを学ぶことができた。
- ・見る順番を考えて、観察すること。(触診を先にしてしまうことがあった。) 腹部で左右を見ることが大事だとわかった。

○平成 27 年 8 月 12 日 フィジカルアセスメント⑧



<受講生の学び>

- ・患者さんがどのように動いている、どのような動きができるのかを、感覚系、運動系、中枢神経系をトータルしてアセスメントし、動きに合わせてサポートすることの大切さを学んだ。
- ・体を実際に動かしてみたり、ペア同士で確認できたりと、実践しながらの講義だったので、とても興味深く感じた。患者さんの気持ちや思い通りに動けない時の気持ち、状況を考えて、日々の業務に今日の事を活していかれたらと思う。
- ・患者さんのために(支えになる)と思って、手を出していたことが、患者さんの側からするとそうでもないということが分かった。その人の動きやすいスペース、その人の自然な動きをサポートしてあげることが大切だと学んだ。

○平成 27 年 8 月 18 日 高齢者の看護



<受講生の学び>

- ・ 高齢者の看護、ケア等、若い人たちとは違い、機能低下していくことが再度認識できた。
- ・ 高齢者は自分の思いをなかなか言えなかったりするため、周りでカバーしてあげなくてはと、改めて思った。
- ・ 在宅から入院し、環境の変化により、高齢者の認知面、精神面等のバランスが崩れてくること
が、改めてわかりました。発する一つの言葉から、いろいろアセスメントして捉え、関わり、ケ
アすることが高齢者ケアの重要なポイントだと思った。

○平成 27 年 8 月 18 日 認知症の看護



<受講生の学び>

- ・ 病棟で認知症の方を受け持っている。一つ一つの声掛けなど、やっていることがまちがっていないんだ、と確認できた。
- ・ 自分が行ってきたケアが本当にいいのか不安に思うことがあったが、脳の働き、中核症状、BPSD (behavioral and psychological symptoms of dementia : 周辺症状) を十分に理解することが重要だと思った。「一人の人」として接すること、私たちの考え方を変えることで、ケア、イメージが変わることを、病棟に戻って伝えたいと思う。認知症になる前にも、それぞれの人生があるので、情報収集をして関わっていきたいと思う。
- ・ 認知症の人ではなく「一人の人」と捉えることを働きながら忘れていくことがあると思った。認知症の病態を知るところからもう一度振り返りたいと思う。

- ・認知症の患者のレベルに合わせた環境作りやコミュニケーションの取り方を工夫していきたい。
- ・日頃無意識に行われているケアが、患者さんの存在を無視した自分たちの業務になっているのではないかと反省した。一人一人に向き合いながら看護実践していきたい。

○平成 27 年 8 月 19 日 褥瘡の看護



- <受講生の学び>
- ・褥創について、ポジショニングについて、予防について、学ぶことが出来て良かった。
 - ・両上肢が拘縮している方のポジショニングとか、枕の当て方等、より具体的でよかった。
 - ・今まで行なっていたことがダメな事もあり、現場で何が良いか考えて取り組んでいきたい。
 - ・看護師の都合だけのポジショニング、バスタオル使用は逆に患者の残存機能を妨げるということがとても印象に残り、普段の業務を振り返らなければいけないと考えさせられた。
 - ・ポジショニングの実技やケアの方法、処置のドレッシング材の詳しい紹介等実践に役立つ内容で非常に参考になった。アセスメントツールは共通であっても、個々の状態には個別性を持った対応の必要を感じた。

○平成 27 年 8 月 19 日 緩和ケアの看護



<受講生の学び>

- ・患者さんの気持ちが少し理解でき、貴重な体験であった。患者さんの心に寄り添うケアを実践していきたい。
- ・私たちが日ごろ行っているケアをしっかりと継続することが大切だと、改めてわかった。

- ・緩和ケア「痛み止めを使用すること」に対してよいイメージを持つことが出来たので職場の同僚にも説明したい。
- ・終末期の看護については、高齢者の看取りにも共通するところがあり、活用していきたい。エンゼルケアに対する考え方、やり方についてもさらに学ぶことが出来良かった。
- ・苦しい、痛い、という訴えは、本人しか分からない事なので、素直に受け止め、適切に薬剤を使うことで苦痛緩和してあげたいと思った。
- ・「看護師は患者・家族の代弁者であり擁護者である」という言葉に共感した。
- ・慣習をそのままするのではなく、新しくなっていることを進められるよう、病棟に広めたい。

○平成 27 年 8 月 20 日 糖尿病の看護



<受講生の学び>

- ・糖尿病についての知識を再確認できたのでよかった。糖尿病の入所者が多いので、今回得た知識を念頭に置き看護していきたい。
- ・糖尿病の患者が多いので、病気だけでなく、精神的なサポートが出来るように、他職種との連携を行いつながっていききたい。
- ・糖尿病の判定基準の値、外来でのフォロー、支援の仕方が学習できた。個々の患者さんに合わせてかかわっていききたい。
- ・セルフケア行動を支援するのが難しいと思っていた。患者さんが治療に参加する意欲を持ってもらうために、患者さんの考えを十分に踏まえ支援するのが必要だと思った。
- ・糖尿病の方を面倒くさがらずに、併走者になれるように頑張りたい。

○平成 27 年 8 月 20 日 摂食・嚥下障害の看護



<受講生の学び>

- ・日頃自分たちが行っているケアが間違っていないことがわかった。口腔だけでなく鼻腔のケアも嚥下に関わっていることが分かり、今後注意していこうと思った。
- ・現場で実際のことを伺うことが出来、とてもよかった。患者様が不安とならないようなコミュニケーションを大切にして、安全な食事となるよう、取り組んでいきたい。
- ・食事は楽しみにしている患者さんがとても多い。でも、飲み込みが悪い、誤嚥のリスクがあるとのことで、ミキサー食のため、食欲がなくなる、おいしくない、などという患者さんが多い。口腔ケアやポジショニングで、嚥下機能がアップでき、形態アップにつながれたらと考えた。
- ・嚥下訓練は主に、ST（言語治療士：speech therapist）が行い評価しているので、食事介助を行う時は何気なく食べさせていたような気がし、反省している。ムセリがないか、とか、摂取量だけにとらわれず、口内環境や嚥下体操、体位など、今日の講義で理解できたので、STとも積極的に連携を取っていききたいと思う。
- ・病院・施設によって食形態が違うため、提供時戸惑うことがある。周辺の病院・施設での情報共有・収集が必要だと思った。

○平成 27 年 8 月 25 日 リハビリテーションの看護



<受講生の学び>

- ・頸部後屈の方のケア、なかなかうまく行かず、バスタオルなどで調節していたが、後屈することによっておこる口腔内の乾燥とか、呼吸状況の理由を説明しながら介護員にも協力してもらおうと思った。
- ・寝たきりの状態が長年続いている患者さんが多く、関節の拘縮も長年あるような方が多い。リハビリに依頼しっぱなしだったが、手浴や足浴の時など、今日学んだことを意識してやりたいと思った。
- ・関節拘縮について詳しく知ることが出来、良かった。実際に体を動かしてみることで、やり方もわかりやすかった。
- ・拘縮予防に必要な知識も得ることが出来た。関節可動域運動の具体的方法を教えていただき参考になった。

○平成 27 年 8 月 25 日 災害の看護



<受講生の学び>

- ・災害看護の講義への参加は初めてだったので、写真を見ながら考えるなど、まとめる、書き出すことでわかったことが多く、良かった。
- ・実際トリアージタグに記入してみて、難しかった。ゆっくり時間をかけて、どの方式で、見極めていくか復習しようと思う。
- ・災害時はどうしてもパニックに陥りやすいが、今回の講義で基本的なことや視点がおおむね理解できた。それを活かせるように訓練等、必要と感じた。
- ・災害時の看護ということで、最近では災害等が多いため、どう対応するか、また、初めてトリアージタグを記入したり、使用してみて、いかに災害時の救護が大事・大切・大変なのかあらためてわかった。
- ・病院ナース、訪看、施設、実際役割が違ってくると思う。災害支援ナースとしての視点で考え実施するという思いが不足しているため、自分の職場だったらと思うと、やはり、災害訓練が大切な気がした。

○平成 27 年 9 月 1 日 急変時の看護①



○平成 27 年 9 月 1 日 急変時の看護②～④



<受講生の学び>

- ・急変時は慌ててしまい、観察しているようでも抜けてしまうことが多くあり、項目ごとに分けることにより、より確実な情報が取れることが勉強になった。日頃の訓練も必要だと改めて感じた。
- ・実技を通して学ぶことが出来た。情報共有の徹底をしても、うまくできないことがあったが、系統だてて、全スタッフが同じ目線とするためのツールが確認できた。
- ・急変時の対応と急変する前の異常にまず気づくことが必要だと学んだ。観察のポイントが学べた。異常の早期発見に気づくポイントが学べた。
- ・急変時の重要項目を改めて再確認できた。以前講習を受けた急変時の対応を思い出しながら、講習を受けることが出来、さらに制度が改定されたことを確認できた。
- ・訪問看護なのであまり急変に関わることはありませんが、いざという時非常に大切で、基本から再確認できた。
- ・病院での救急対応の見直しが必要だと感じた。今後検討課題にしていきたいと思う。
- ・予期せぬ事態に遭遇することが、スタッフには大きなストレスになることが改めて理解できた。

Ⅲ 地域密着連携

○平成 27 年 8 月 27 日 地域密着連携



<受講生の学び>

- ・自分の病院がある地域の特性を考えるいい機会だった。言葉の理解とともに、互いの役割を知る事、理解することの重要性を感じた。今後、互いの顔がわかる関係づくりを目指し、相談員に頼るだけではなく、自分でも知識を深めなければならないと思う。
- ・自分には関係ないと思っていたが、少しずつ勉強していく必要性を感じた。
- ・他の受講生の話も聞けたので、他の地域の状況も把握できた。
- ・包括ケア病棟を持っているため、コメディカルとの連携を図りながら患者様への円滑な退院支援につなげていきたい。
- ・自分の地域、施設の現状を見直し、今後について考えてみようと思うことが出来ました。「お互いの顔が分かる環境づくり」を念頭に、他機関・地域・家族の方との関係づくり、連携を大切にしていきたい。
- ・地元の人の方を求めていることが分からないと、地元の方々への必要要求されていることが分からない。地域の方の声に耳を傾けていかなければならないと思った。

○平成 27 年 9 月 3 日 連携のためのスキル① 「コーチング」



<受講生の学び>

- ・ワークの時間が多く、受講者間の距離が近く感じられるようになった。自分の考えを話すことに苦手意識がありましたが、すべての答えに間違いがないと言われた時には安心感を得た。いろいろな人と話をする楽しさ、大切さを思いっきり学べた。
- ・傾聴することで、相手との信頼関係もでき、ほめることで笑顔になれると改めて学んだ。
- ・相手のことを考えながら話したり、傾聴することによって関係性が変わり、仕事等もしやすくな

ることが分かった。つい、マイナス面に眼がいきやすくなるが、今日の講義を聞いて、考え方が変わった。

- ・気持ちが満たされれば、自然に意欲ややる気はわいてくるということが分かった。傾聴の大切さやメリット、一人一人考え方、感じ方が違うことを改めて気づくことが出来た。
- ・他にもコーチングの講義を受けたことがあったが、とても楽しく、自分の思いを素直に出すことが出来た。仕事で活かす前に、自分を満たすこと、それから周囲へと取り組んでみたい。

○平成 27 年 9 月 8 日 地域医療連携の実際

1. 保健医療福祉における他職種連携（チーム医療）



2. 地域医療の実際「連携をすすめる上で必要な基本的スキルとは？」



<受講生の学び>

- ・多職種連携は色々な課題が有り、難しいこともあるが、それぞれの職種の特性等を理解することで連携することも出来ることを勉強する事が出来た。グループワークでは、病院と施設の違いや共通点もあり、大変参考になった。
- ・ICT（情報通信技術：Information and Communication Technology）がしっかりつながり、意見交換が出来るともよかった。グループワークしたことにより、他の方とのコミュニケーションも今まで以上に出来て良かった。
- ・包括ケアについては、ほぼ相談支援員に退院について等まかせっきりだったので、今回の講義を聞き、勉強したことを誰にでも説明できるようなスキルを身につけることも大切だと思った。
- ・他の施設の現状を知ることが出来て良かった。自分の施設内の業務ばかりだけでなく、他部門にも目を向けて、連携につなげていきたい。
- ・グループワークをすることで、他の施設・病院の現状、問題、役割を知ることが出来て良かった。ポスターを書き作成する、発表する等チームワークを学び、連携に活かせると感じた。
- ・いろいろなチーム医療が有るということを学んだ。私は病院でしか働いたことはないが、グループワークを行ない、それぞれの施設でそれぞれの役割が有るということを改めて学んだ。地域との関わりで、それぞれの職種、行政も含め町ぐるみで関わっていくことが必要と学んだ。
- ・地域の特性を理解し、自分たちの病院では何が介入できるのか様々な分野から情報を得ていかなければならないと思った。

○平成 27 年 9 月 9 日 地域連携事例検討

1. 作業療法について



2. 理学療法士を理解する



3. 地域医療連携事例検討



<受講生の学び>

- ・連携がうまくいくか否かで、その方の予後が全く変わってしまうこと、意識せずに色々な職種の方と連携していることなど、改めて理解することが出来た。
- ・ICT（情報通信技術：Information and Communication Technology）を使い、リアルタイムでグループの検討が出来て、楽しく学習出来た。色々なケースの発表が有り、共感できたが、チームでの関わりの難しさを感じた。
- ・病院で入院していることで行なうリハビリ訓練だけがリハビリではなく、地域で行なっている活動もリハビリになっていること。生活すべてがリハビリになることを学んだ。
- ・OT（作業療法士：Occupational Therapist）、PT（理学療法士：Physical Therapist）の実際については、現場ではどうしてもまかせっきりになることが多く、何が違うか明確でなかったが、本日の講義でその違いを学んだ。同じ看護師という職業でも、病院か施設かで、患者に関わる内容が異なり、それぞれに適応した退院支援、地域連携を図る必要があるとあらためて実感した。
- ・情報共有がどの職場でも欠かせない事を再確認できた。職種によって感じるリスクは異なると思うので、状況によっては他職種への連携を図りながら、患者が安全に生活できるよう支援したいと思った。
- ・多職種が関わるので、カンファレンスでの情報共有、地域住民を巻き込み支援する必要があると改めて思った。

○平成 27 年 9 月 10 日 連携のためのスキル②「ファシリテーション」





<受講生の学び>

- ・グループワークの中で、みんなで情報を共有し、出来ることを導くことが出来て楽しかった。
- ・ファシリテーションの研修に何度か参加したことがあったが、身にはなっていなかった。講義を聞き少しだが身に付き、職場で活用できそうだと思った。
- ・グループ内で1つの事をまとめ上げるために、皆が同じ目標に向かえるよう、実際の業務の中でも行えるファシリテーション。今日の事を今後に活かしていけるよう忘れないでいたいと思う。
- ・医療とは別の角度からの講義はなかなか聞くことが出来ないので、とてもよかった。協力する力も身に付いた。今後、ファシリテーターを行う時も、自信を持って取り組んでみたいと思う。

IV 看護研究の基礎

○平成 27 年 9 月 15 日 看護研究の進め方①

講義テーマ：身近に感じる看護研究



<受講生の学び>

- ・看護研究というと良いイメージが無く、進んでとりかかろうという意識が足りない分野だった。固いイメージからではなく、日頃、身近なところから疑問を持つことがポイントということがわかった。
- ・研究は患者のためにすると考えれば、少しは身近に感じられた。
- ・看護研究は苦手意識しかなく、取り組み自体が嫌だった。この講義を受けて、核となる部分、何が重要なのかを知ることが出来た。

○平成 27 年 9 月 15 日 看護研究の進め方②



<受講生の学び>

- ・目的を持つこと、調べることの楽しさ、研究って難しいだけではない夢中になれる楽しさも少し見えたような気がした。
- ・原著とか初めて知ることが出来た。センスとキーワードチョイスがポイントに合わないと、なかなか目指す所に行きつかないと思った。
- ・検索方法、キーワードを的確に入れること。最新の論文を選ぶことが重要だとわかった。文献検索の種類がわかった。研究だけではなく、日々のケアにつなげることが出来る。
- ・文献は引用・参考で使用しているが、それを鵜呑みにしないで、読んでみて正しいかどうか裏付けも必要なのだと思う。

○平成 27 年 9 月 16 日 質的・記述的研究



<受講生の学び>

- ・原著など論文は、表に出て初めて論文だということが、なるほどと思った。表に出ないだけで、すごいことは沢山あるし、忘れられてしまうようなもったいないことも沢山あると思った。
- ・昨日の講義からの続きで、基本的なところから勉強不足の所が少しわかった。基礎が身につくように振り返りたい。
- ・質的・量的研究の違い。何が重要になってくるか見直す機会になった。
- ・質的研究をやろうとしているので、実際にいかせそうなポイント等がわかった。
- ・文献を目にすることが少ないので、もっと見る時間を作っていきたい。

○平成 27 年 9 月 17 日 量的研究



<受講生の学び>

- ・ 研究は難しいものだけれど、身近なものに興味を持って知りたいと思うことが大切。知りたいことたくさんあるので、何かをやってみてみたいと思った。
- ・ いろいろな論文からのデータの読み方を学習できた。難しかったが、注意して読むことができた。
- ・ 学会等に参加して、内容を見て、表が出た時の P 値の意味がわかった。量的研究はただ数を収集するのではなく、そこから様々なものを用いて分析しなくてはいけないので難しく思った。
- ・ 難しい用語について、例えとして現場でよくある場面やみんなが知っているようなことでの表現が分かりやすかった。
- ・ 適宜論文を読む時間がもらえたのでよかった。読むのに思いのほか時間がかかった。失敗事例でもまとめてみようという思いになれた。

○平成 27 年 9 月 29 日 研究計画の作成と発表のルール①

1. 倫理的配慮の基本



2. 研究計画書の作成



○平成 27 年 9 月 30 日 研究計画の作成と発表のルール②

1. 研究計画書の作成



2. 発表のルール



<受講生の学び>

- ・初めて研究計画を作成したが、うまくできるか不安ばかりだった。でも、先生方が分かり易く教えてくれたので、最後まで作成することが出来た。作成した内容を、今後やってみようと思った。
- ・研究テーマがさまざまだったが、自分の病院にも当てはまるものもあり、意見が聞け、先生の助言も聞けたので、とても勉強になった。
- ・論文作成時の留意点、文献の書き方をしっかりと学んだことがなかったため、とてもよかった。
- ・苦手だなと思いながら行っていたが（初めは）、やってみて楽しいなあ、自分にも簡単なものできるかな？へ変わったように思う。達成感が出た。
- ・看護研究について発表を聞いて、自分もテーマを持ち続けたいと思った。
- ・少しでも研究に取り組めるように、学んだことからやっていきたいと思う。

○ 講義担当者

開講日	单元名	講師名
7月22日	看護の動向と課題Ⅰ	豊嶋三枝子教授
	看護の動向と課題Ⅰ	菅原京子教授
7月23日	看護の動向と課題Ⅱ	豊嶋三枝子教授
8月6日	根拠に基づく看護とは	高橋直美助教
	看護過程	南雲美代子准教授
8月11日	フィジカルアセスメント①～④	沼澤さとみ准教授、半田直子講師
8月12日	フィジカルアセスメント ⑤⑥	半田直子講師、沼澤 さとみ准教授
	フィジカルアセスメント⑦	半田直子講師
	フィジカルアセスメント⑧	南雲美代子准教授
8月18日	高齢者の看護	北村山公立病院 老人看護専門看護師 後藤慶先生
	認知症の看護	山形さくら町病院 認知症看護認定看護師 吉澤 理恵氏
8月19日	褥瘡ケアの看護	山形大学医学部看護学科 皮膚・排泄ケア認定看護師 片岡ひとみ先生
	緩和ケアの看護	山形県立河北病院 緩和ケア認定看護師 斎藤春美先生
8月20日	糖尿病の看護	佐藤志保特任講師
	摂食・嚥下の看護	済生会山形済生病院 言語聴覚士 梁瀬文子先生
8月25日	リハビリテーションの看護	理学療法学科 赤塚清矢講師、中野渡達哉助教
	災害の看護	青木実枝准教授、高橋直美助教
9月1日	急変時の看護①	山形県立救命救急センター 救急科 武田健一郎先生
	急変時の看護②～④	山形県立救命救急センター 救急看護認定看護師 峯田雅寛先生
8月27日	地域医療連携	菅原 京子教授
9月3日	連携のためのスキル①	コーチング・メンタルヘルス研修 Present Time 塩野貴美先生
9月10日	連携のためのスキル②	東北芸術工科大学 コミュニティデザイン学科 醍醐孝典氏
9月8日	地域医療の実際	前田邦彦教授
		井上京子准教授、佐藤志保特任講師
9月9日	地域連携事例検討	作業療法学科 認定作業療法士 慶徳民夫先生
		理学療法学科 高橋俊章先生
		井上京子准教授、佐藤志保特任講師
9月15日	看護研究の進め方	遠藤恵子教授

	看護研究の進め方	佐藤志保特任講師
9月16日	質的・記述的研究	後藤順子教授
9月17日	量的研究	後藤順子教授
9月29日	研究計画の作成と発表のルール	遠藤恵子教授
	研究計画の作成と発表のルール	今野浩之助教
	研究計画の作成と発表のルール	後藤順子教授、井上京子准教授、今野浩之助教
9月30日	研究計画の作成と発表のルール	井上京子准教授